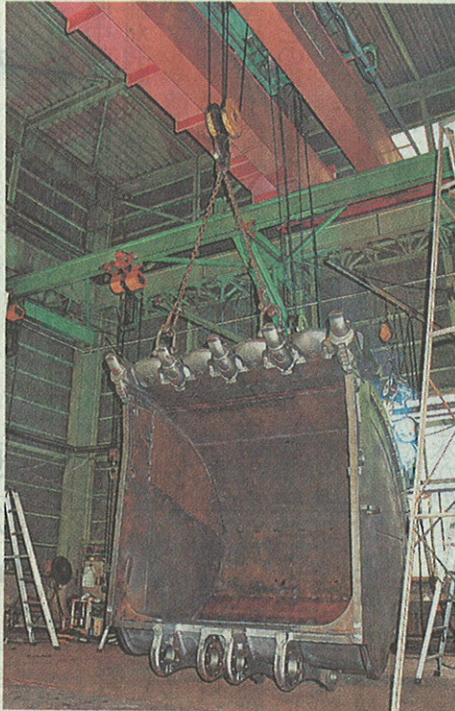




超大型バケット 増産体制前倒し

丸栄製作所

工場クレーン増設へ



15トクレーンにつり下げて溶接が進められる超大型バケット

建設機械先端機器メーカーの丸栄製作所(射水市鷺塚・小杉、今牧繁社長)は、鉱山資源の採掘現場などで使われる建機用の超大型バケットの増産体制の構築を前倒しする。世界的に原材料需要が拡大する中、超大型建機向けの需要が急増している。十月までに本社工場の大型クレーンを増設し、月産三個体制を五個体制に増やす。

超大型バケットは約三辺四方の大きさで、十トントラック数台分に相当する土砂などを一度にすくうことができる。オース

トラリアやインドネシアや日立建機からの受注がア、ブラジルなどの資源開発国で、鉄鉱石や銅、ニッケルなどを採掘する建機用として使われている。同社は三月から生産を本格化させたが、輸出が好調な建機大手のコマツや日立建機からの受注が増えた。バケット一個の重さは十三トに達するため、十トントラックを二台導入して対応していた。十月までに約五千万円を投資して、さらに二台を増設することを決めた。

アジアを中心とした経済成長を背景に、資源開発の拡大は当分続くことしており、同社の主力である中型バケットに続く事業の柱にしたい考え。来年には月産七個体制を目指すとしている。

平成19年8月2日(木)

北日本新聞